

CNCP 通信

VOL.143 / 2026.3.5

■今月の土木■



【上】フジタ技術センター付
属棟「続（つづく）」

【右】1階会議室：木とPCa
のハイブリット構造。仕上にも木を多用



▼シリーズ「適疎な地域づくり」

・故郷に戻る今、改めて“適疎な地域づくり”を考えてみる：酒井喜市郎

▼身近な土木

・現存する日本最古の石橋を訪ねて：鮎本健治

▼フレンズ

・フジタの ESG への取り組み：菅原玲子

▼事務局通信

■フジタの“高”環境づくり

フジタの企業理念は、「自然を 社会を 街を そして人の心を 豊かにするために フジタは たゆまず働く」です。また、技術力を基盤とする企業として目指すべき姿を現すスローガンに「“高”環境づくり」を掲げています。昨今の不確実性な社会への適応力とレジリエンス強化に向けて、「抜本的な建設ビジネスの変革」を加速しながら、「地球と未来に必要とされる会社」であり続けるために、より高い価値を創造し提供し続けること。それがフジタの“高”環境づくりです。（菅原玲子）

▼身近な土木に続く



▼シリーズ「適疎な地域づくり」

故郷に戻る今、改めて“適疎な地域づくり”を考えてみる

鉄建建設株式会社 顧問
酒井 喜市郎



◇ 故郷に帰る今

高校を卒業と同時に故郷岐阜を離れ、大学を卒業後に現在の会社務めをスタート、そして今 47 年の会社人生が終わりを迎えようとしています。その最後の 7 年にわたり「土木と市民社会をつなぐ事業研究会」通称「CSV 研究会」に参加し、所属する会社の外から建設業界を俯瞰し、社会の中で建設業がどのようにあるべきかを考える機会を与えて頂いた事に、心から感謝しています。そしてこの機会に現在研究会が進めているテーマ「適疎な地域づくり」について改めて故郷岐阜から見て見ることで、適疎とは何かを考えてみたいと思います。

◇ 故郷岐阜市とは

まず私の故郷岐阜市の基本情報から見て見ましょう。岐阜市は人口約 40 万人、岐阜県の県庁所在地で、JR 東海道本線、高山線の岐阜駅、名鉄本線の名鉄岐阜駅のある駅周辺エリアと、岐阜市役所や繁華街「柳ヶ瀬」がある市内中心部エリア、岐阜公園・岐阜城がある旧城下町エリアなどに分かれ、その周りを住宅地や農地が中心部を囲う、面積 203.60km² の中部地方の中核都市です。

市の北側を鶉飼いで有名な清流長良川が流れ、濃尾平野の北端に位置する風光明媚な町ですが、岐阜市は県の最南部に位置し、JR 東海道線で名古屋まで 20 分弱と、とても便利なところにあります。

かつては岐阜駅前には全国にその名を轟かす大繊維問屋街が広がり、東海地方全域に分布した紡績工場と共に一大繊維産業が栄え、多くの関係者が岐阜に仕事を求めて集まってきていましたが、繊維産業の衰退と共にこれらの施設が廃業・撤退となり、現在ではかつての面影はありません。また名古屋からの距離が近すぎることも原因で、それまで人は岐阜へと集まってきましたが、現在では多くの人は名古屋へ向かうことが多くなっているようです。また周辺部に大規模な商業施設が数多く建設され、買い物客は市中心部から郊外へとその流れが顕著になっています。かつて美川憲一の「柳ヶ瀬ブルース」で全国的に有名になり、全国から集まる多くの人で賑わって



岐阜中心部（3つのエリア）地図

また周辺部に大規模な商業施設が数多く建設され、買い物客は市中心部から郊外へとその流れが顕著になっています。かつて美川憲一の「柳ヶ瀬ブルース」で全国的に有名になり、全国から集まる多くの人で賑わって

いた柳ヶ瀬の繁華街・歓楽街も、これらの人たちの足が途絶えるのと並行し、現在ではシャッター街でその名を全国に知られるようになってしまいました。

◇ 柳ヶ瀬の変遷

ここで少し柳ヶ瀬の変遷を見て見たいと思います。

柳ヶ瀬は明治の中頃からその名前が見られ、大正時代になると博覧会ブームで「内国勸業博覧会」が柳ヶ瀬で開催され、商業の街として大きく発展してきました。戦後には柳ヶ瀬地区は百貨店をはじめとする商業地域に、西柳ヶ瀬地区は劇場や飲食店が林立する歓楽街へと発展し、一時は東海地方随一の歓楽街として発展していました。その頃「柳ヶ瀬ブルース」が全国的にヒット、全国各地から多くの人々が柳ヶ瀬に吸い寄せられていました。

しかしその後鉄道の利便化、市内電車の廃止、繊維産業の衰退、そして最後の打撃となった大規模小売店舗法の改正による郊外の複数の大規模商業施設の設置により、住民の足は名古屋へ、また自動車により郊外へと向かい、全ての百貨店は撤退、柳ヶ瀬は日本一のシャッター街と言われるまで衰退しました。

◇ 岐阜市および周辺の名所

岐阜県は周囲を7つの県に囲まれ、海がないことでも知られています。しかし木曾、長良、揖斐の大河3本が岐阜県を南下し濃尾平野を縦断、福井、石川、富山、長野との県境にはそれぞれ日本を代表する山脈を望み、高山、白川郷、白山、下呂温泉、飛騨温泉郷、馬込宿、美濃和紙、関の刀剣、関ヶ原古戦場、織田信長で知られる岐阜城や日本3大仏の一つとされる正法寺の岐阜大仏、長良川の鶺鴒など、名所には事欠きません。今は亡き私の母に言わせると「岐阜には海は要らん、山も河もある」が口癖で、それほど住みやすく、心豊かにするところでした。

しかしこれらの観光資源も岐阜県の中心都市である岐阜市に活気を増大させることはなく、いつの間にかシャッター街の岐阜、が定着してきました。

◇ 町の活気を取り戻す

このような状況を打破するため、官主導により柳ヶ瀬地区も岐阜駅前と合わせて都市再生緊急整備地域指定を受け再開発が進み、柳ヶ瀬に隣接する市役所付近の再整備・建替えもなされ、町は見違えるようにきれいになりました。ただ同時に市中心部の至る所



最近の柳ヶ瀬本通



昭和41年頃の柳ヶ瀬本通



大規模店舗（イオンモール）



大規模店舗（モレラ岐阜）

に駐車場が見られるようになり、県内最後の百貨店である岐阜高島屋も 2024 年 7 月に閉店となり、跡地利用については現在でもまだ決まっていない状況です。一方高島屋南側に隣接する場所には超高層（35 階建て、低層部が商業施設）の分譲住宅が建てられ、さらに市では隣接する金公園^{こがね}の再整備や大学の誘致も検討中で、官主導ではあるものの、これまでの歓楽街柳ヶ瀬のイメージは大きく変わりそうな予感があります。

このような中、柳ヶ瀬周辺の路線価低下の影響もあり、最近柳ヶ瀬地区への店舗出展数が増加に転じています。これまでのように大型商業施設に人が集中していた時代から、個性的な小さな店が点在する、分散型のまちづくりへ、柳ヶ瀬もそんな次のフェーズに入りつつあるようで、空き店舗を活用した取り組みも少しずつ始まっています。小さな飲食店、アトスペース、ギャラリー、シェアオフィス、こうした新たなプレーヤーたちが「柳ヶ瀬でやってみよう」と集まり始めています。柳ヶ瀬には柳ヶ瀬らしい建物、柳ヶ瀬らしい人の流れがある、地元の人が気軽に立ち寄れる、回遊性のある街の方がこれからの時代には合っているのではないかと、柳ヶ瀬商店街振興組合の理事長もお話されています。

さらに住民主体での柳ヶ瀬を元気にする試みも出てきています。柳ヶ瀬で商売をしていた人々が、「街に新しいお客さん呼び込もう！」と考えてイベントを始めた組織「サンデービルディングマーケット実行委員会」が発展し、新たに「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」として発足、現在は毎月第 3 日曜日と偶数月の第 1 日曜日にイベント「サンデービルディングマーケット」、毎月第 4 日曜日には「GIFU ANTIQUE ARCADE」が開催されるなど、毎回飲食や物販などの 100 を超える店舗が並ぶようになったそうです。

このような状況で官民が同じ方向に向くことにより、少しずつではありますが柳ヶ瀬も元気を取り戻しつつあります。

◇ 適疎な町と感ずる町にするために

皆が住みたいと感ずられる町、すなわち適疎な町にするためにはいくつかの要素が必要です。

- ① 住民や当事者の強い意志、これが第一で、何をしてもこれがなければ前には進みません。
- ② 官と民が連携すること、どちらかだけの動きではいずれ破綻が来ます。
- ③ 町を造るためのノウハウ、情報も重要です。
- ④ これらの重要な要素をマネジメントし、それぞれの利害者・関係者を一つの方向に導くためのスキル、あるいはスキルを持ったチームの活用。

これにより関係する全員にメリットが感ずられる状況をつくることこそ、まちを持続的に次の世代に繋いでいくためには重要ではないかと思えます。



岐阜駅前の状況



サンデービルディングマーケットの状況

では岐阜の事例を見て、①～④についてはどうなのか検証してみます。

①については、先述の「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」の皆さんや、柳ヶ瀬商店街振興組合の加盟店の皆さんもここへ来て強い意志を持ち始めています。彼らはこのままでは柳ヶ瀬の未来は無い、なんとかして柳ヶ瀬に活気を取り戻したい。しかもかつてのような大型店舗による集客ではなく、それぞれ個性のあるお店などにより地域を盛り上げ、周辺地域と合わせて回遊できるまちづくりをしたい、との強い意志が感じられます。あるオーナーは、「日本一のシャッター街と言われてから逆に注目度が上がり、再注目されやすい。今がチャンスだと思う」と言うような力強い言葉も出始めています。この動きが町全体に広がれば、自ずと結果は出てくるのではないのでしょうか。

②について岐阜では大きな問題があると思います。駅前の再開発など、行政側からの視点による様々な施策が進められてはいますが、個別の住民の意見がどれだけ勘案されて進められているかはよく見えない状況です。やはり官民が協働して物事を進めることが第一だと思います。

さらに高島屋跡地開発についても、オーナーと店舗の間での諸問題について、行政の意思がよく見えてきません。一等地の取り扱いを個別の問題としてみるのではなく、地域全体の問題として行政も共に取り組む、そのような姿勢が大切かと思います。

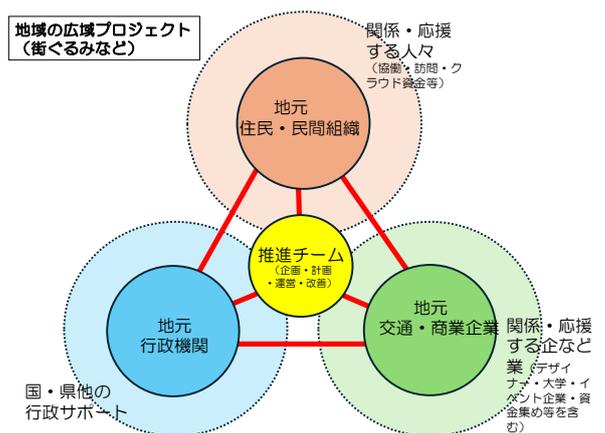
③のノウハウについては、現在取り組んでいる「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」では、日本各地での事例を視察し、それを参考に進めているとのこと。ただ、個別に視察に行くのも限界があり、それぞれの特徴や地域性もあり、さらに良い事例やノウハウをもった地方がある可能性もあります。これらの情報をどのように集めるのか、これがヒントになりそうです。

④は③にも通じるところで、このようなノウハウや組織をどのように活用していくか、まだまだそのような状況ではないと感じられます。

現在研究会では、適疎なまちづくりを進めていくためのイメージの検討を進めており、その一例が右図になります。まちづくりを支えていく当事者それぞれが個別に様々な取り組みを進めていますが、その進め方が最も適しているのか、他にもっと良い事例はないのか、それを実行していくために支援する団体をどのように見つけていくのか、そのためのキーとなるチームが必要だと考えられます。

中心に位置する「推進チーム」は我が研究会をイメージしていますが、まちづくりのどの段階にあるかによりその役割や立場が大きく異なると思います。最初はず「知恵袋」のような形で関わりを持ち、各段階により様々な構成に発展させ、場合によってはメンバー所属会社がその力を発揮する、そのような組織ではないかと考えています。

私としてはこれまでの経験や人脈を活かし、他のメンバーとの連携をしつつ、どうすればこのような形で岐阜を良い町にすることが出来るか、微力ではあるものの何らかの関わりを持っていきたいと考えています。そうすれば、岐阜は冒頭に述べた数多くの文化的に優れ、自然豊かな大きな資産を持っており、これらと連携することで一つの大きな「適疎な地域」が構成できるのではないかと考えています。是非多くの方の御支援、御賛同を頂けるようお願いして筆を置きます。



適疎な地域づくりのイメージ事例（研究会）

▼身近な土木

現存する日本最古の石橋を訪ねて

土木学会/土木広報センター/インフラパートナー・グループ
 日本ミクニヤ株式会社 九州支店 防災部
鮎本 健治



日本の石橋は、その多くが江戸から大正時代に架けられた。現存するアーチ石橋のうち多くが九州に現存している。資料によると、「現存する日本のアーチ石橋は約 1,800 基、その内 95%が九州に存在。最古の橋は長崎市の中島川に架かる 1634 年完成の眼鏡橋と云われていますが、沖縄県那覇市の首里城公園北側の円鑑池には、1502 年にリブアーチ式（縦軸積み法）で架けられた天女橋があります。」※1)とのこと。沖縄滞在のあり、日本最古の石橋を訪ねていざ首里城公園へ。

■天女橋：1972 年 5 月 15 日 国指定建造物

15 世紀末に朝鮮王から贈られたお経「ほうさつぞうきょう法冊蔵経（高麗版大蔵経）」を納めるため、1502 年に円鑑池の中にお堂が設けられました。そこへ至る橋が天女橋で、当初は関蓮橋と呼ばれました。

1609 年、薩摩の琉球入りでお堂は破壊され、法冊蔵経は失われました。1621 年に至って、新たにお堂を建て弁財天像をまつり、以降お堂は弁財天堂と呼ばれ、橋も天女橋と呼ばれるようになりました。

天女橋は、中国南部にある橋に似た琉球石灰岩を用いたアーチ橋で、全長 9.75m、幅 2.42m、欄干は細粒砂岩で作られています。

1945 年、沖縄戦で弁財天堂は破壊され天女橋も破損しましたが、1968 年弁財天堂は復元され、翌年天女橋も修復され、現在に至るそうです（現地の案内看板より）。



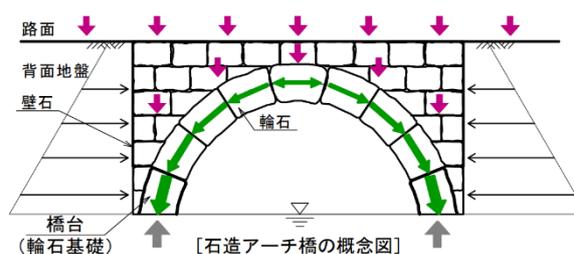
円鑑池・弁財天堂と天女橋



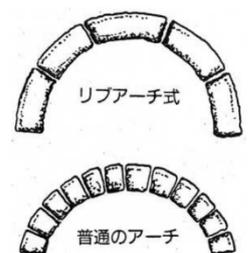
天女橋

この天女橋、中国が明の時代、琉球と交易のあった頃に伝わったと云われています。沖縄の石橋は殆どがリブアーチ式であり他の地域ではあまり見ることはできません。又眼鏡橋は日本に多くにあるセグメント式（横軸積み法）の中では最古と云われていますが、その時代は長崎県以外に殆ど伝播されませんでした※1)。

ちなみに、リブアーチ式とは (ribbed arch=縦軸積み法)、輪石



石造アーチ橋の概念図※2



アーチ模式図※3

(アーチ石)の長い方を縦(橋の渡る方向、川の流れと垂直方向に)に並べた石橋です。

しかし、色々調べてみると天女橋が架けられた1502年から遡ること半世紀前の1456年、同じ沖縄県に末吉宮磴道〔とうどう〕橋という陸橋が架けられているとのこと^{※4)}。さらに足を延ばして末吉宮へ。

■末吉宮磴道：1956年2月22日 県指定建造物

末吉宮境内にある石造階段で、築造は本殿と同じ尚泰久(しょうたいきゅう)王代(1445~60年)の1456年ごろと推定される。末吉宮は、本殿・拝殿・祭場からなり、本殿の建つ岩盤と祭場側の低い岩盤との間の下方に石造単拱橋(アーチが1つの橋)を架け、石垣の上にさらに石を積み上げて両岩盤を結びつけた所に拝殿が建っていた(拝殿は明治末期に倒壊)。参道を登りつめた所から磴道になるが、祭場広場までは踏面に勾配のついた8段の階段、祭場広場から拝殿までは折り返し逆方向に21段の直線の石段、拝殿からさらに7段の石段を登りつめた所に本殿が建てられている。境内入口の石段から祭場広場までは低い石垣囲いがあり、21段の石段も含めて「末吉宮磴道」と呼ばれている。この磴道は、すべて琉球石灰岩の切石を用いて築かれている^{※5)}。なお、この「末吉宮磴道」、建造物の種別は橋梁として指定されています。



末吉宮磴道橋



反対側から撮影

ちなみに、この末吉宮に訪問した際、筆者は末吉公園側からアプローチしましたが、分岐がいくつもあるうえ案内表示がなく、しばらく森の中をさまよいました(探検気分で楽しかったですが)。訪れる方は北側の「大名参道入口」からのアクセスがおすすめです。また、末吉宮での参拝は文化財保護のため石段の下から行うことになっているようですので、参拝の際はご注意ください。

※1)石橋の宝庫, 建設コンサルタンツ協会誌 Vol.281, 一般社団法人建設コンサルタンツ協会
https://www.jcca.or.jp/kaishi/281/281_toku4.pdf

※2)道路橋石橋の定期点検に関する参考資料(中間報告), 道路橋石橋維持管理検討委員会
<https://www.gsr.mlit.go.jp/n-michi/file/chukanhoukoku.pdf>

※3)大分の石橋物語, 田村卓夫著
<http://www.nan-nan.jp/lib/sb009.pdf>

※4)近世以前の土木・産業遺産, 管理者 岡山大学名誉教授・馬場俊介
https://www.kinsei-izen.com/pref/47_Okinawa.pdf

※5)那覇市観光資源データベース
<https://www.naha-contentsdb.jp/spot/492>

▼フレンズコーナー

フジタの ESG への取り組み

株式会社フジタ
経営改革統括部 GX 戦略部
菅原 玲子



フジタでは、自然に、社会に、街に、そして人の心に、より高い価値を創造し提供し続けることを会社の理念に掲げており、“高”環境づくりを推進しています。特に Environment（環境）での取り組みを強化しており、建物の省エネや木質化、新たな脱炭素技術の開発などを進めています。また、Social（社会）の取り組みとして、次の時代をになう子どもたちへの教育活動に力を入れています。今回は取り組みの一部を紹介します。

■環境に配慮した GX の実証的な建物、フジタ技術センター附属棟「続（つづく）」

2025 年に技術センター敷地内に附属棟を建設しました。フジタの持続可能な社会に向けた取り組みを続けていくという決意を込めて、建物名称は「続（つづく）」と名付けました。

附属棟「続」では、GX（グリーントランスフォーメーション）の実証的な建物として、当社で開発した『FWdPC®構法』と環境に配慮した新素材を各所で採用しています。外装・内装ともに、多くの木材や再生材を使用しており、木の温かみと心地よさを感じられる空間を実現しました。

FWdPC®構法は鉄筋コンクリートの頑丈さと、木材の CO2 吸収や炭素固定機能を兼ね備えた木質ハイブリッド構法です。工場生産による工期の短縮と純木造よりも高い耐震性能、RC 構造よりも環境負荷が小さいという特徴があります。



2025 年 9 月に竣工しました。環境認証の LEEDGold、BELS 『ZEB』、CASBEE S を取得しています。

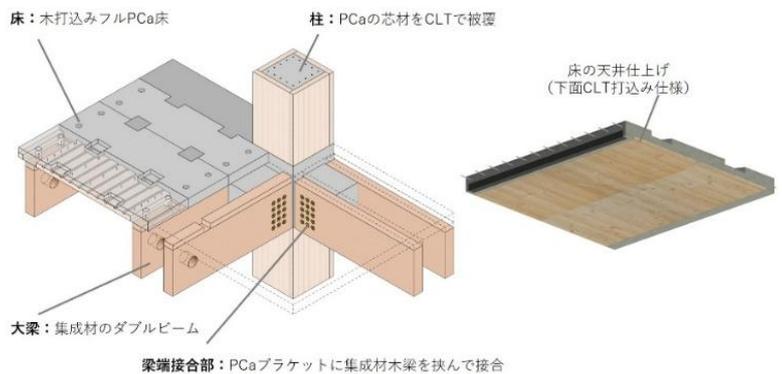


図. FWdPC®構法の基本構成

[\[Link\] FWdPC®構法（木質ハイブリッド構法）](#)

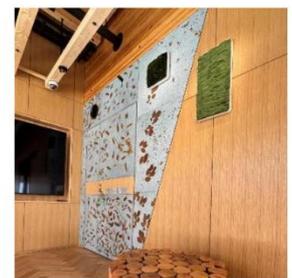
内装の一部には、従業員の使用済み作業着を原料にしたサステナブルな循環型繊維リサイクルボードを使用しています。表面には、技術センターの桜の花びらや葉、ススキなどを散りばめたデザインとし、資源循環の推進とともに、社員が愛着を感じる空間としての演出に一役買っています。



作業服回収



繊維化



リサイクルボード（製品化）

[\[Link\] 作業服のアップサイクルプロジェクト](#)

外構の一部には、雨を受け止める雨庭技術『レインテックガーデン®』を適用しています。雨水を集めて地面にしみこませ、河川等へ流れこむ雨水を減らしています。また、土壌には当社が開発したバイオ炭を含む緑化資材“ピクソイル®”を使用し、緑地による雨水管理と炭素貯留を同時に実現しています。気候変動の適応と緩和の両方に寄与するグリーンインフラ技術です。



付属棟「続」の外構に設置された雨庭

[\[Link\] レインテックガーデン®](#)

付属棟「続」は、GX 技術のショールームとしての機能とともに、社員の研修施設としても運用しています。付属棟「続」でのさまざまな取り組みはもちろん、未来へ「続」くこれからの環境価値をお客様に提案し続けながら、技術も人も育てていくための施設となっています。

■次世代育成+地域とのつながり「未来への種まき フジタの築育」

フジタでは、未来を担う子どもたちに向けて「築育（ちくいく）」と呼ばれる取り組みを行っています。「築育」とは、「建築・土木」の“築”と「育成」の“育”を組み合わせた言葉で、建設産業の魅力や社会的意義を次世代へ伝えることを目的とした活動です。

工事中の建物の見学会や職業体験をはじめ、さまざまなイベントや体験プログラムを通じて、ものづくりやまちづくりの楽しさ・重要性、さらには自然環境を大切にする姿勢を子どもたちに伝えています。こうした活動により、子どもたちが建設の仕事に対する理解を深め、将来この分野に関心を持つきっかけとなることを期待しています。社会に欠かせない建設という仕事を志す人財を育てることは、誰もが安心して暮らせる未来の創造につながり、持続可能な社会づくりに寄与するものと考えています。

■夏のリコチャレ 2025

フジタは、内閣府、文部科学省、経団連が共催する「理工チャレンジ（リコチャレ）」の趣旨に賛同し、女子小学生・中学生・高校生を対象に、技術センターにて見学会「～フジタで“見て、触れて”楽しく学ぼう建設～」を開催しました。「理工チャレンジ（リコチャレ）」とは、理工系分野に興味がある女子生徒が、将来の自分をしっかりイメージして進路選択（チャレンジ）することを応援する取り組みで、当社の見学会は8回目の開催となります。2025年は小学生10名、中学生4名、高校生1名、保護者6名、総勢21名が参加しました。



■「けんせつ探検隊 2025」を開催

日本建設業連合会主催の親子向け現場見学会「けんせつ探検隊 2025」が、当社で施工中の「福岡広域都市計画事業三代土地区画整理事業基盤整備工事」（福岡県新宮町）の現場で行われました。当日は小中学生と保護者の8組18人が参加。子どもたちは大規模な造成現場の工事の様子や建設機械などを見て回り、土木工事の迫力を肌で感じていました。



CNCP は、
あなたが参加し、
楽しく議論し、
活動する場です。

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人
シビルNPO
連携プラット
フォーム

●登録事務所
〒110-0004
東京都台東区下谷
1丁目11番15号
ソレイユ入谷

事務局長 田中 努：
cncp.office@gmail.com
ホームページ URL：
<https://npo-cnnp.org/>



▼事務局通信

■2月の実績

●第142回経営会議

開催日・場所：2月10日（火）Zoom会議
議題：各事業の進捗確認／理事会資料と内容の確認

●第2回理事会

開催日・場所：2月24日（火）Zoom会議
議題：上期の活動報告／下期の活動計画

■3月の予定

●第143回経営会議

開催日・場所：3月10日（火）Zoom会議
議題：各事業の進捗確認

■現在の会員と仲間の数

●会員：賛助会員 30／法人正会員 8／個人正会員 22／合計 60

●仲間：サポーター95／フレンズ 141／土木と市民社会をつなぐフォーラム 15／インフラパートナー18／合計 269

●CNCP の活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただいています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイアート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シンワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛島建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサルタンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田建設工業（以上 30 社）



土木と市民社会を
つなぐフォーラム



インフラパートナー
JSCC 土木学会